

22 . マヨン山の伝説 (ピコル)

昔、ピコルとして知られる地に、マクソと呼ばれる勇敢な部族の長がいました。彼の名前の意味は、「強い者」でした。族長マクソには、ダラガン・マガヨンという名の若く美しい娘がいました。その名前の意味は「美しい娘」。マガヨンの母は、彼女を産んだ時に、亡くなりました。

マガヨンは、美しさと同様、親切な心の少女に育ちました。そして、多くの求婚者が、彼女の愛を競い合いました。求婚者のひとり、族長イラガで、名前はペグトゥガ。意味は、「火山が噴火した時」。族長ペグトゥガは、強くて、ハンサムな指導者であっただけでなく、偉大な狩人で、地上のどんな生き物も、彼の力づよい弓と矢で狩猟をし、殺すことができました。

族長ペグトゥガは、マガヨンの愛を勝ち取ろうと決心し、彼は、彼女の父族長マクソに多くの高価な贈り物、金やルビーや真珠やダイヤモンドなどを、惜しみなく与えました。しかし、マガヨンは、どんな求婚者とも、急いで結婚しようとは思いませんでした。そして、夫として選ぶ準備ができるまで、彼らと安全な距離を保っていました。

近くに、ウラブという人が住んでいました。彼の名前の意味は「愛」です。彼はタガログ族長の勇敢な息子でした。ある夜、ウラブはヤワ川の川岸にそって、帰り道を歩いていました。そこで、彼はマガヨンが水浴びをしているのを見て、彼女の傑出した美しさのために、恋に落ちてしまいました。ウラブは茂みに隠れ、マガヨンは彼を見ることはできず、そして、彼の方は彼女を遠くで見とれていました。

ウラブはマガヨンに夢中になって、毎晩川を通り、茂みに隠れて、美しいマガヨンが水浴びしているのを見ました。毎日、通るたびに、彼の彼女に対する愛は、だんだん強くなっていきました。しかし、ウラブは、たいへん恥ずかしがりやで、その美しい少女に近づくことができず、そして、彼は彼女に語りかけるきっかけがほしくて、彼女と知り合いたい、とっていました。

フィリピンの神話と伝説 22 . マヨン山の伝説

ウラブの祈りは答えられました。ある夜、マガヨンがいつものように水浴びをして、茂みで彼女を見ていると、激しい雨が頭上に降って、猛威をふるい、重い雨がその地域を洪水にしました。その時の強い雨水によって溢れた川に呑みこまれて、猛威をふるう川によって、マガヨンは押し流されてしまいました。これはウラブのチャンスであり、彼は勇敢に渦を巻いている川に飛び込みました。もがいているマガヨンのあとを泳いで、死ぬはずのところから、彼女を救いました。この出来事の後、これがきっかけで、ウラブとマガヨンは毎日川で会うようになり、お互いに永遠の愛を誓い合いました。

ウラブは美しいマガヨンの愛を獲得したことで、たいへん幸せでした。そこで、ある朝、彼は彼女の父族長マクソを訪問し、マガヨンとの結婚の許可を頼みました。ウラブは族長の、木の階段に彼の槍を投げました。それは、求婚者が結婚を願う時の習慣です。娘は本当にハンサムなウラブを愛していると思ったので、族長マクソは、結婚の申し出を承諾し、ウラブとマガヨンに彼の祝福を与えました。喜んだウラブは、彼の種族の村まで走って帰り、結婚式の用意を始めました。結婚の新しい服を作ることや、行事のための特別の食事を作るのは、たいへんな仕事でした。

そうしている時に、マガヨンのほかの求婚者、族長パグトゥガが、マガヨンの差し迫った、彼のライバル、ウラブとの結婚のことを聞いて、憤慨しました。パグトゥガは彼の怒りを行動に変えて、マガヨンの父族長マクソを誘拐して、人質にしました。彼はそしてマガヨンに言葉を送り、もし、彼女がウラブとの結婚をやめて、そのかわりに彼と結婚しなければ、彼は彼女の父を殺し、彼女の親族と戦争をする、と言うのです。

ぞっとして、無力のマガヨンは、怒った族長パグトゥガの要求を受け入れ、ウラブのかわりに彼と結婚するしかありませんでした。喜んだ族長パグトゥガは、すぐに結婚の準備を始めました。

その間に、ウラブは何が起こったか聞いて、彼も怒り始めました。彼は、ライバルの族長パグ

ウガに対する復讐を誓いました。そして、最も強い兵士たちを集めて、彼らに戦いの準備をさせました。

結婚式が始まり、不幸なマガヨンと族長パグトゥガは、夫と妻になる準備をし、怒ったウラブは彼の兵士たちと所定の場所に着きました。ウラブは彼の弓を用意し、矢は発射され、族長パグトゥガを襲い、心臓を刺し貫き、簡単に彼を殺してしまいました。マガヨンは、彼女の真の恋人ウラブと会い、たいへん喜びました。彼女はまっすぐ彼の腕に走りました。しかし、ふたりの恋人が抱き合う前に、族長パグトゥガの兵士たちの矢が発射され、マガヨンを襲って、彼女はウラブの腕の中で、瀕死の状態でした。死にそうなマガヨンは、ウラブを見上げて、そして、つぶやきました。「愛しています。」そして、永遠に彼女は目を閉じました。ウラブが悲しむ間もなく、もうひとつの矢が空中を飛んで来て、ウラブの胸に突き刺さりました。死んだウラブは、死んだマガヨンの血だらけの体の上に倒れました。彼の腕の中で、彼女の頭は抱えられていました。

しかし、ふたりの恋人の悲しい死は、戦っている兵士たちに、武器を下ろさせ、二度と戦わない、と彼らは誓いました。彼らはみんな、抱き合っているふたりの死んだ姿を見、ゆっくりひざまずいて、悲しみで泣き始めました。族長マクソが、死んだ娘を見、大声で泣き出した時、天は、彼の声を聞いて、彼の悲しみに、雨の涙で加わりました。族長は、彼の部下に、ふたりの恋人のために墓穴を掘って、そこに埋めさせました。彼らはお互いの腕の中に抱きしめあって、埋められました。マクソに族長パグトゥガが与えた宝は、ふたりと一緒に埋められました。

何日かして、族長マクソは、家の中でひとり座って、美しい娘の悲劇の死を受け入れられないでいました。そこで、ある日彼は、彼の足元の地面が動き出して、震えているのを感じました。彼が家から走り出ると、恐ろしい地震があり、彼はウラブとマガヨンの墓穴を見て、驚きました。大きく成長して、頂上は空に向かっていました。数日フィリピンの神話と伝説 22 . マヨン山の伝説

のうちに墓は、山の大きさに成長していました。

この山は「マガヨン山」として知られるようになりました。何年もするうちに、名前は縮んで、「マヨン」となりました。赤く熱い溶岩が、山の頂から爆発しています。ピコルの人々は、これは族長パグトゥガの怨念、マガヨンの死への怒り、そして、彼らによって埋められた、取り返せなかった彼の宝物の怒りです。

今日、晴れた日、綿菓子雲が山の頂に接すると、人々は、これはウラブが美しいマガヨンの唇に口づけしているのだ、と言います。